

[総合的な学習の時間]

## 小中の連続的かつ発展的な学習活動の実現に向けた 指導計画作成の研究

— 小中一貫校の総合的な学習の時間の実践を通して —

高澤 康\*

### 1 テーマ設定の理由

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境が大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。そのため、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構成することができるようにすることが求められている<sup>1)</sup>。

2008年1月17日の中教審答申では、「総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てるなどをねらいとすることから、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものである。」<sup>2)</sup>と述べられている。新学習指導要領においても、総合的な学習の時間の目標は、「探求的な見方・考え方」を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指すものであることが明確化されている。加えて、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、各学校が総合的な学習の時間の目標を設定するに当たっては、各学校における教育目標を踏まえて設定することが示された<sup>3)</sup>。総合的な学習の時間は、まさに子どもたちが未来社会を生き抜くための資質・能力を育成するために、「社会に開かれた教育課程」を実現させるものである。

さらに、「総合的な学習の時間が充実するために、小学校や高等学校との接続を視野に入れ、連続的かつ発展的な学習活動が行えるよう目標を設定することも重要である。」「各学校においては、内容を指導計画に適切に位置付けることが求められる。その際、学年間の連続性、発展性や小学校や高等学校等との接続、他教科等の目標及び内容との違いを留意しつつ、他教科等で育成を目指す資質・能力と関連を明らかにして、内容を定めることが重要である。」「小学校における総合的な学習の時間の取組との連続性、高等学校等における取組への発展的な展開のためには、中学校段階でのような学習を行い、どのような資質・能力の育成を目指すのか、小学校の全体計画や年間指導計画も踏まえて中学校の指導計画が作成されるよう、指導計画をはじめ生徒の学習状況などについて、相互に連携を図ることが求められる。」「小・中学校間で総合的な学習の時間の目標や内容、指導方法等について関連性や発展性が確保されるよう連携を深めることが大切である。」<sup>1)</sup>とされている。

しかし現状は、総合的な学習の時間に困難や悩みを感じている教師は多い。十日町市小中学校教諭を対象に、総合的な学習の時間の実施状況に関するアンケートで聞いてみた。その結果、小学校では「他学年との情報交換がなされていないことが多く、自分が担任した学年の内容しか分からない。」「学校としてテーマ設定や1年間の活動の流れが計画していないので、担当が考えていくことに困難を感じる。」。中学校では「総合的な学習の時間の3年間を通したテーマ設定ができていないため、活動の継続性が少ない。」「学年毎に進んでいることや、打ち合わせの時間が取れず、学年間の連携が難しいことがある。」などの意見が出された。アンケート結果から総合的な学習の時間における連続的かつ発展的な学習活動の成立が困難な現実が伺える。

また、著者自身も中学校教諭として総合的な学習の時間を担当した際に、生徒が小学校時に何を学んできたか分からなかったことや、中学3年間の流れを考えることができなかったことがある。このままでは、小学校時に学習した内容を中学校で再度学習することもあり、探究的な学習につながらないケースが生まれ、新学習指導要領に示された学校間の接続が成されないと想像される。

\*小中一貫校まつのやま学園

小中一貫校まつのやま学園では、1年生（小学1年生）から9年生（中学3年生）の教育課程を編成しており、総合的な学習の時間においても9年間を見通したカリキュラムを作成している。小中一貫校である当学園の総合的な学習の時間の取組が、小学校と中学校の連続的かつ発展的な学習活動のモデルとなると考え、本テーマを設定した。

## 2 研究の目的

・探究的な見方・考え方をより一層深めるための総合的な学習の時間における指導計画を作成し、実践を通して小学校と中学校の連続的かつ発展的な学習活動の実現に向けた成果と課題を研究する。

## 3 研究の方法

小中一貫校まつのやま学園（十日町市立松之山小中学校）は、施設一体型の小中一貫校であり、教育目標は「生き生きとした子ども」とし、学園として共通化して運営されている。児童生徒は、同一施設で生活し、授業や行事に取り組んでいる。教職員は職員室を共有し、日常的に一体となって学校運営に取り組んでいる。

本実践は、小中一貫校まつのやま学園の開校からの3年間の取組から、総合的な学習の時間における小学校と中学校の連続的かつ発展的な学習活動を展開するための全体計画と単元計画の2つを構想し、研究していくことにした。

### (1) 総合的な学習の時間全体計画の作成

全体計画作成に当たって、新学習指導要領では、各学校において定める目標は、「第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。」としている。また、各学校において定める目標及び内容の設定に当たっては、「各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。」としている。児童生徒の実態や地域の実態から求められる資質・能力を見極め、発達段階を見通した連続的かつ発展的な学習活動を計画する。

### (2) 9年生の単元計画作成と実践

義務教育段階において、9年生は総合的な学習の時間の集大成となり、学園が目指す子どもの姿を具現化させなければならない学年である。小・中の連続的かつ発展的な学習活動を展開する中で、地域の人、もの、こととの関わりを通して得た情報と地域の現状との対比から探究課題を設定し、探究的な見方・考え方の働きをさらに促す実践を行う。

## 4 実践の省察

### (1) 総合的な学習の時間全体計画の作成

学園の教育課程編成に当たり開校予定1年前（平成28年）に、松之山小学校と松之山中学校の教職員で、在籍する子どもたちにつけたい力を明らかにする機会を設け、具体的な子どもの姿で成果と課題を出し合った。その課題として、主体的に行動する、新しいことに挑戦するなどの行動を支える「思考力・判断力・表現力」が劣る傾向が見られた。

久保田智恵美学園長は、「社会の中で自分のよさを表出し、確かな自己実現を図っていくには、自然や多くの人との関わりの中で、人としての生き方を学ぶ実感ある体験が欠かせない。」とした。また、「生きる力の本質を自身の心身に力として入れていくには、子どもの感性に訴える体験と価値づけが重要だ。」とした。

そこで、これまでの総合的な学習の時間の実践や経緯、今後の在り方等をいかに充実させていくか、小中の全職員で小中一貫教育9年間を見通し、「まつのやまタイム」を中核にした教育課程の編成を行った。

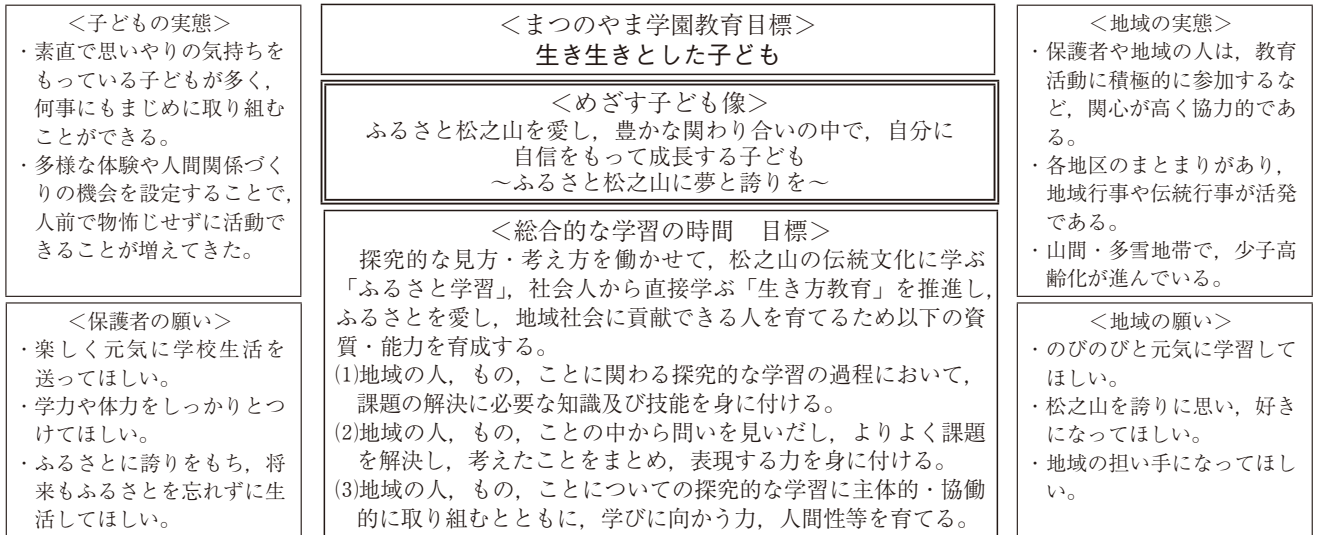
全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては、「学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画などを示すこと。その際、小学校における総合的な学習の時間の取組を踏まえること。」<sup>1)</sup>とされている。

図1は平成30年度の全体計画である。全体計画は年度当初に関係者で検討を重ね、総合的な学習の時間の目標を実現させるためのカリキュラムづくりを行った。全体計画を基に、年度当初に担任が中心となって、学習の対象やテーマを決め、1年間の活動を構想する。地域コーディネーターを迎えて、助言や指導をいただきながら構想の検討も行った。

実践から、義務教育9年間を見通し、「まつのやまタイム」の全体計画を作成したことで、教職員で目指す子どもの姿を明確にすることができ、探究的な見方・考え方を働かせて、松之山の伝統文化に学ぶ「ふるさと学習」、社会人から直接学ぶ「生き方教育」を軸として、連続的かつ発展的な学習活動を展開することができた。

9年生の生徒へのアンケートからも、回答者全員が小学校時の総合学習が活かされていると答え、「小学生の総合学

習で調べた松之山のことが、9年生の学習で生かされた。」「6年生で作成した松之山のパンフレットを使って、宮島学園への松之山の紹介発表に役に立った。」などと連続的かつ発展的な学習活動が展開されていることが伺える。また、「松之山の自然や温泉、歴史についてよく知ることができた。課題についても考えることができた。」「松之山の魅力について詳しく知ることができた。」「松之山のことが前よりも好きになった。」などの意見があり、当校のめざす姿であるふるさとを愛し、地域に関心をもつ生徒に近づくことができたと言える。



育てたい資質・能力			
	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
3・4年	・各学年の単元計画による。	・対象との体験的な関わりを通して、課題に気付く。 ・解決の見通しをもち、計画を立てる。 ・相手や目的に応じて、表現する。	・自分の行為について、意思決定する。 ・目標を設定して、課題の解決に向けて行動する。 ・異なる意見や他者の考えがあることを認める。 ・自分と地域とのつながりに気付き、地域と進んで関わる。
5・6・7年	・各学年の単元計画による。	・対象と積極的に関わる中で、課題を設定する。 ・解決の方法や手順を考えて、計画を立てる。 ・相手や目的に応じて、効果的に表現する。	・自らの生活の在り方を見直し、よりよい在り方を考えて実践する。 ・自己の成長を振り返り、これからの自分を見つめ、自己を高めようとする。
8・9年	・各学年の単元計画による。	・複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定する。 ・収集した情報を多角的に分析し、事象を比較したり、因果関係を推測したりして自分の考えをもつ。 ・相手や目的、意図に応じて、論理的に表現する。	・自己の目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する。 ・自己の将来を考え、夢や希望をもつ。 ・異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重する。 ・当事者意識をもって地域の活動に参画する。

まつのやまタイム～松之山に学ぶ・松之山を知る・松之山を発信する～							
学年	3年暮らし	4年自然環境	5年農業	6年伝統	7年人	8年職業	9年国際
探究課題	「松之山のくらし」	「松之山の自然」	「松之山の米づくり」	「松之山の伝統」	「今を守り育てる松之山」	「未来へつなぐ松之山」	「世界・全国へつなぐ松之山」
学習活動	四季を通して、自然・ひと・くらし等の特徴やよさに気付く。	松之山の自然を深く学び、地域と自然とのつながりを考える。	米作りを体験しながら人や環境、食文化について知り、考える。	松之山の伝統について調べ、考え、伝える。	地元の文化や自然を守り、それらを生業にしている人々の生き方に触れる。	様々な人との関わりから、「はたらく」ことの意味や意義を見出す。	地域以外で活躍する人々との交流を通して、その人々の生き方に触れる。

<指導方法>	<指導体制>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども主体の探究的な学習</li> <li>・個の追究と協働的な学びのバランス</li> <li>・体験と思考をつなぐ書く活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の収集と活用</li> <li>・地域人材の活用</li> <li>・各教育期職員による支援体制</li> </ul>
<地域との連携>	<小中一貫校の特色>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じた地域の方々との協働活動</li> <li>・地域の方々を講師に招いての授業</li> <li>・地域行事の積極的な参加</li> <li>・地域施設の積極的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9年間の見通しのある一貫した活動</li> <li>・小中教職員による定期的な校内研修</li> </ul>

<図1 総合的な学習の時間(まつのやまタイム)全体計画>

## (2) 9年生の単元計画作成と実践

① 単元名 「松之山の魅力を発信しよう」(9月～12月 26時間)

## ② 単元の内容

ア 探究的に関わりを深める対象 松之山に生きる人やもの、こと

## イ 設定理由

9年生は地域貢献を通して、松之山と世界や全国とのつながりを考え、自分の生き方につながる取組を行ってきた。

1学期は、どのような地域貢献ができるのかを考え、地域住民へのインタビュー活動や、公民館長と地域貢献についての企画会議を行い、情報収集や内容を考えてきた。学習を通して、生徒は、地域の行事に積極的に参加することが地域貢献につながると考え、夏季休業中を使って、各自が行事に参加した。しかし、地域貢献の新たな取組を企画したいと考えたが、その方法や内容を決めきれずにいた。2学期に入り、地域の建設業界から使わなくなった看板を活用してほしいという依頼があり、看板のコンセプトについても学校に一任された。生徒と話し合う中で、松之山の魅力を看板という形で発信することが、地域貢献につながると考え、本単元を設定した。

看板作りを通して、地域の価値や課題を多面的・多角的に捉え、松之山と世界や全国とのつながりについても考えを深めることができると考える。また、一つの物を作ることによって、生徒が主体的・協働的に取り組むとともに、学びに向かう力、人間性を育てることにつながると考えた。

## ウ 育成を目指す資質・能力

育成を目指す資質能力		具体的な内容
知識・技能	知識	・看板作成の手順や設置に関する基本的な知識 ・地域の自然や特産物などの魅力や価値
	技能	・インターネットを活用して情報を検索し、目的の情報を見付け出す技能 ・パソコンやデジタルカメラを使ってデザインを作成・編集する技能
思考力 判断力 表現力等	課題設定	・自分の知識や経験と、地域の様々な意見や問題を踏まえて、適切な課題を設定する力 ・課題解決のための方法や日程を計画する力
	情報収集	・学習対象について、地域や地域外の方々への質問やインターネットの活用による情報を収集する力 ・街の看板を観察することや、書籍などを活用することで効果的なデザインを収集する力
	整理・分析	・情報を出し合って並べ変えて整理する力 ・収集した情報から、コンセプトに適合するように多角的に分析・比較して自分の考えをもつ力
	まとめ・表現	・自分や仲間が感じたことや考えたことをまとめる力 ・整理・分析の結果を課題と正対させて表現する力
学びに向かう 力、人間性等	自分自身に 関すること	・自らの思いや願いに基づき、行動を計画したり、実行しようとしたりする態度 ・学びを振り返り、自己の変容や学習の価値を考え、その後の自分の生き方や将来につなげて考える力
	他者や社会との関 わりに関する こと	・情報を収集したり情報を整理分析したりするために、意見を出し合い、協力する態度 ・他者の考えに触れ、課題の解決に生かそうとする態度

## ③ 単元の指導計画 (全26時間)

時間	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	○評価規準 ・評価方法
第一次 (10)	◎看板のコンセプトを考える。 <b>【課題設定】</b> ○地域の魅力や課題を整理する。 ・1学期のインタビュー活動等で得た情報や自分の考えを出し合う。 ・看板設置に関する基本的な知識を学ぶ。 ○地域の現状把握から課題を設定する。 ・看板設置場所を確認する。 ・課題を明確にして、看板作成のコンセプトを全体で考える。 ○看板完成までの計画を立てる。 ・スケジュールと役割分担を決める。	○看板作成に関する基本的な知識を理解する。 <b>【知】</b> ・行動観察による評価(観察記録) ○適切な課題を設定している。 <b>【思】</b> ・記述による評価(ワークシート) ○行動を計画し、実行しようとしている。 <b>【主】</b> ・記述による評価(ワークシート)
第二次 (8)	◎情報や素材を集める。 <b>【情報収集】</b> ○班別で活動する。 ・地域でインタビュー活動を行い、魅力や方言を調査する。 ・地域外の職員や、インターネット等を活用して、地域の魅力や課題、効果的なデザインなどを調べる。 ・動植物や特産物のイラストを作成する。 ◎情報や素材を整理・分析して、よりよい看板を目指す。 <b>【整理・分析】</b> ○看板作成の企画会議を行う。 ・意見交換をして、情報を比較・分類する。 ・看板デザイン案を作成する。 ○他者の評価から、デザインを再検討する。 ・業者や学園長、美術教員など、専門的・総合的な視点から評価してもらう。	○他者や、インターネットなどから必要な情報を収集する。 <b>【判】</b> ・記述による評価(ワークシート) ○情報を検索したり、デザインを作成・編集したりする。 <b>【技】</b> ・行動による評価(観察記録) ○意見を出し合い、他者の考えに触れ、協力して課題を解決しようとする。 <b>【主】</b> ・行動による評価(観察記録) ・記述による評価(ワークシート)

第三次 (8)	<p>◎看板を完成させる。<b>【まとめ・表現】</b></p> <p>○デザインを業者へ提出する。</p> <p>○看板を全校や地域に発表する。</p> <p>・作成を終えて考えてことをまとめる。</p> <p>◎看板作成で学んだことから、松之山の地域外とのつながりと、自己の生き方を考える。<b>【まとめ・表現】</b></p> <p>○松之山と世界や日本とのつながりについて考える。</p> <p>・つながりがある人やもの、ことについてまとめ、地域の見方や考え方を広げる。</p> <p>○自己の生き方について考える。</p> <p>・9年間の学びから、自己の生き方を考え、将来の自分への決意文を書く。</p> <p>・8年生と生き方について意見交換する。</p>	<p>○整理・分析の結果を課題と正対させて表現する。<b>【表】</b></p> <p>・制作物による評価（看板）</p> <p>○自分や仲間が感じたことや考えたことをまとめる。<b>【表】</b></p> <p>・記述による評価（ワークシート）</p> <p>○自己の変容や学習の価値を考え、その後の自分の生き方や将来につなげて考える。<b>【主】</b></p> <p>・記述による評価（ワークシート、原稿用紙）</p> <p>・行動観察による評価（観察記録）</p>
------------	---	--

#### ④ 指導と評価の実際

ア 継続した学びを基に、地域の人、もの、ことと関わることを通して、地域の現実を把握し、課題を見付ける。

生徒は、小中8年間の「まつのやまタイム」の学びから松之山の人、もの、ことの良さを実感してきた。中学校卒業を前に、自分たちを育ててくれた地域に貢献したいという願いをもち、活動を進めた。今までの学びから、生徒は、地域外の方々から松之山に足を運んでもらいたいという気持ちを強く抱き、看板のコンセプトを「松之山のいいところを伝えよう」と設定した。看板制作を通じて、地域を少しでも元気にしたいという地域貢献のイメージを共有することができた。

イ 多大な情報の中から必要な情報を取捨選択しながら意識的に収集し、蓄積する。

情報収集は、主に学校でインターネットの活用や学校職員にインタビューする班と、地域に出て情報を集める班に分かれて活動した。インターネットで松之山について検索すると、松之山温泉についてのコメントが多くあり、温泉の認知度の高さを実感したが、その他の自然や特産物については数少なかった。また、地域外の教職員からは、「自然がきれい」「人がとても優しい」「人も温泉も温かい」「四季がはっきりしている」など、松之山で過ごすことで実感できた魅力を知ることができた。

温泉街で方言について調査した班は、地域の方からたくさんの方言を教えていただいた。しかし、看板の中に松之山の風情を一言で表現できる方言を収集することは困難であった。生徒は、情報収集の意義を確認しながら活動することの重要性を学んだ。

情報収集の課題として、特にインターネットを活用する場合、一度に多大な情報を得ることができるが、必要な情報を取捨選択する力が個々に差があり、困難を感じる生徒もいた。必要な情報を取捨選択できるようになるためには、目的を明確にすることと、経験を重ねることの重要性を実感した。

ウ 収集した情報について思考ツールを活用して整理・分析し、知識や技能に結び付けたり、他者と考えを交流させたりしながら問題の解決に取り組む。

看板制作に向けて、コンセプトの「松之山のいいところを伝えよう」を考える場面や、デザインを考える場面では、できるだけ生徒が中心となって話し合えるように、協議の時間を十分に確保した上で、学級委員が司会者となり、ホワイトボードや付箋を使って意見を視覚化させた。教師の支援は、協議が滞った場合のみとして、生徒自らが自分たちの手で活動を創り上げていると実感できるよう配慮した。

また、業者や学園長、美術科教員などからデザイン案を評価してもらい、同世代とは異なる客観的な視点を知り、相手意識をもって活動を進めていけるよう工夫した。

活動当初は、生徒は、キャッチコピーや方言を入れる案を想定していたが、関係者との協働により、デザインは洗煉され、松之山温泉のロゴを入れるなど、さらに改良された看板に仕上がった。

整理・分析の場面では、他者の考えに触れ、課題の解決に生かそうとする態度が必要となる。中学3年生になると、自分の意見をはっきりともつことができる反面、他者からの考えを受け入れがたくなることがある。苦勞して収集した情報や作成したデザインが活用されない場面で、厳しい表情となる生徒もいた。その際は、自分たちが考えたコンセプトに立ち返り、「地域のため」という他者や社会に視点を向けて物事を考えることで、目指す資質・能力を高めることができた。

エ 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し表現する。

授業後の振り返りでは、協働することの大変さと充実感を味わった記述が見られた。

「作成にはとても苦労したけれど、完成した看板を見て、みんなで協力して制作したかがあった。一人一人が自分のやるべきことをしっかりとできたので完成することができたと思う。」

松之山と世界や日本とのつながりについて考える場面では、ワークシートの記述から、看板を制作することで、生徒は地域を客観的に捉えて考えることができ、地域の魅力を改めて感じる事ができた。また、自己の生き方を考える場面では、将来の松之山との関わり方について、「松之山には若い人が少なくなっていくと思うが、松之山の自然や伝統をなくさないようにしていきたい。」「大人になっても松之山に住み続けていきたい。」「将来は松之山に住んでいないかもしれないが、地域の行事には帰ってきたい。」などの意見が見られた。



## 5 成果と課題

小中一貫校として、「まつのやまタイム」の全体計画を作成したことで、9年間を見通した学年毎の探究課題と学習内容を設定できた。全体的には連続的かつ発展的な総合的な学習に時間を展開することができている。

9年生の実践やアンケート結果からも、連続的かつ発展的な学習活動を展開することは、探究的な見方・考え方が連続・発展することになり、総合的な学習の時間が目指す形に近づくことができ、実践は有効であったと考える。また、実践から生徒は、地域の魅力を知り、自分たちが育ててくれた地域に貢献したいという願いをもつことができた。これは、新潟県のキャリア教育のねらいである「ふるさとへの愛着や誇りと、自分の将来を設計し、自立して生きていく力を育成すること」につながっている。

しかし、各学年の担当者が、「連続的かつ発展的」な視点をもって実践していたかと言えば、必ずしもそうではない。教師自身に既習の学びや、これからの学びへのつながりが意識できなければ、学年の取組だけで完結する可能性がある。

また、当学園は、施設一体型の小中一貫校であることから、教育目標が共通化されており、合わせて総合的な学習の時間の目標も設定されている。また、総合的な学習の時間に関する研修や話し合いも簡単にできる。しかし、他の学校はそうではない。小学校・中学校にはそれぞれの教育目標があり、各校のカリキュラムが編成されている中で、小中が連続的かつ発展的な学習活動を展開することは容易なことではないと想像できる。

総合的な学習の時間の小中連携について、田代高章・柏木慶喜は、「小中連携・一貫「総合的な学習の時間」カリキュラムは、「小中一貫教育学校」や「小中一貫型 小学校・中学校」であろうと、既存の学校制度であろうと、一人ひとりの子どもの成長・発達を念頭に置いたライフステージ全体を通じた責任ある学校カリキュラムでなければならない。そこには、個々の発達差や系統的な教育内容のレベルの違いも踏まえつつも、学校教育全体のカリキュラムを俯瞰する目的・内容・方法の連続性とそれを支える校種を超えた教職員の共通意識も必要ではないだろうか。」<sup>3)</sup>と述べている。

今回の実践から、小学校と中学校の連続的かつ発展的な学習活動を展開することは、探究的な見方・考え方をより一層深めるためには有効であったと考える。既存の小学校・中学校でも、「連続的かつ発展的な学習活動」を実現させるための動きは必要であるが、学校文化の違いや教職員の意識、打合せ時間の確保等に課題があると思われる。そのため、「ふるさとへの愛着や誇り」をキーワードにすることで小中学校間、学年間で計画を作成することが可能ではないか。加えて、今後も当学園の実践の研究と検証を行い、小中の連携のモデルを発信していくことが求められるだろう。

## 引用・参考文献

- 1) 文部科学省、「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間」, 2017年, p.1, p.6, p.20, p.21, p.36, p.37, p.123
- 2) 中央教育審議会,「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について(答申)」, 2008年, p.131
- 3) 田代高章・柏木慶喜,「岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第14号」「小中連携・一貫カリキュラムとしての総合的な学習の時間の現状や課題(3)」, 2105年, p.295